

スリーハート 乳児用除菌液を発売 ミツワ化学と 新型インフル対応

衛生用品販売のスリーハート(茨城県ひたちなか市、仙波康成社長)は化学工業薬品のミツワ化学(群馬県高崎市、須永勝社長)と共同で乳児用の除菌液を開発、販売を始めた。白血球と同じ成分で、病原菌やウイルスの除菌効果のある微酸性電解水を使用する。昨年の新型インフルエンザの流行などを受け、除菌液の使用が増えると判断。販路拡大を目指す。

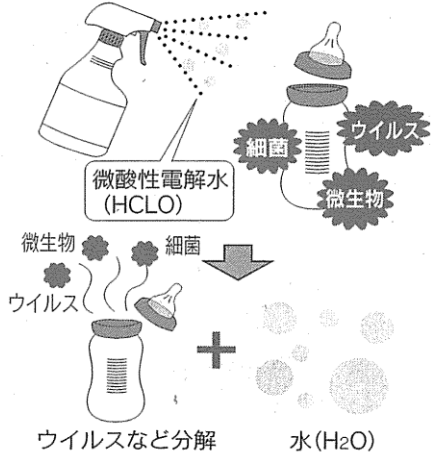
哺乳瓶や布団に噴霧

微酸性電解水は希塩酸が誤飲しても問題ないとを電気分解することで発いう。スプレー容器で微酸性電解水を噴霧し、哺乳瓶やアレルギーを引き



5、6回の噴霧で哺乳瓶を除菌できる

微酸性電解水の除菌イメージ



乳(ほにゅう)瓶や乳児の布団などを除菌する。乳児用の除菌液は薄めたアルコールなどを使うのが一般的だ。ただ、肌荒れやアレルギーを引き

起こす難点があった。微酸性電解水はpH値が5〜6.5と中性に近く、人体への影響はほとんどない。

商品は400ミリ入りで1300円。支給が始

「(仙波社長)としていた。電気分解のノウハウを持つミツワ化学が液剤を製造し、スリーハートが「アクアシモ」の商品名で販売。微酸性電解水は豚舎や食品加工場などで使われるが、個人向け商品として販売する企業は少ないという。「安全性の高さを訴えることで、他社製品との差異化が可能」(仙波社長)とみる。

「(仙波社長)としていた。特需も狙う。アクアシモの専用ホームページのほか、県内外のドラッグストアやホームセンターで販売する。年内に2000万円の売り上げを目指す。スリーハートは2009年3月の設立。衛生用品のほか、糖尿病の自宅検査キットなどを販売する。ミツワ化学は1985年の設立。化学工業薬品の卸売りや微酸性電解水の製造を手がける。

6月4日(金) 朝刊35面に掲載